

新人保育者に対する評価

～ 前年度との比較を通して ～

高岡昌子¹⁾・飯田恵美子¹⁾・岩本健一¹⁾・小川純子¹⁾・高橋千香子¹⁾・林 悠子²⁾

1) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

2) 奈良学園大学

The Evaluation of Newcomer Childcare Workers : Comparisons with results from the previous year

Masako Takaoka¹⁾・Emiko Iida¹⁾・Kenichi Iwamoto¹⁾・Sumiko Ogawa¹⁾

Chikako Takahashi¹⁾・Yuko Hayashi²⁾

1) *Naragakuen University Narabunka Women's College*

2) *Naragakuen University*

本研究では、高岡他 (2017)¹⁾ に引き続き、平成28年度の本学の短期大学卒業生が就職先において新人保育者としてどのような評価をされているのかについて調べ、各評価項目と総合的な評価（現況での満足度や将来性があると感じること）との関係について検討した。「6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」において、前回（平成27年度卒業生）の平均2.77から、今回は3.09になっており、上昇している傾向がみられた。「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。」においては、前は平均3.13で、今回は3.30であり有意差はなかった。一方、在学中の全教科最終累積GPAの平均は、今回2.70で、前は平均2.49であり、t検定して比較すると明らかに高くなっていた。しかし上述したように職場からの評価も明らかに上がっていたというところまでには至らなかった。卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中の累積GPAの値との相関もみたが、すべての項目において相関はなかった。これらの結果を保育者養成校における今後の教育に活かしていきたいと考えている。

キーワード: 新人保育者に求められる資質、新人保育者としての評価、保育者養成校における課題、GPA

1. はじめに

保育者に求められる資質について、多くの研究がなされてきた（前迫他 (2004)²⁾、江田 (2007)³⁾、林他 (2012、2014、2016)^{4) 5) 6)} や高岡他 (2017)¹⁾ など）。例えば、林他 (2016)⁶⁾ では、平成23年度

高岡昌子・飯田恵美子・岩本健一・小川純子・高橋千香子

〒631-8523 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

林 悠子 〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北3丁目12-1 奈良学園大学人間教育学部

から平成26年度までの間の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ってきたアンケート調査から、保育現場では即戦力として役立つ保育の実践力に加えて、「社会人基礎力」などのチームで働く上で重要視される様々な能力が求められていることが示唆された⁵⁾。高岡他(2017)¹⁾では、総合的な評価につながる項目について検討し、新人保育者として礼儀正しく日々の業務に意欲的に取り組む姿勢が重要であることなどを示唆した。これらの研究成果を教員間で共通理解し、学生が望ましい保育者として就職していけるために必要な内容を日々の教育に取り入れてきた。今回は平成28年度の本学卒業生の保育者としての就職先に対して行ったアンケート調査結果から、各評価項目と総合的な評価(現況での満足度や将来性があると感じること)との関係について調べ、どのような内容が総合的な評価につながるのかについて調べた。また全体的に高い評価を得た新人保育者についての自由記述内容と、全体的に低い評価であった新人保育者についての自由記述内容を調べ、保育者養成校における今後の教育に活かすことのできる情報を得たいと考えている。さらに卒業後における新人保育者としての総合的な評価得点・各項目における評価得点と在学中のGPAの値との間に相関があるのかを調べ、今後の指導に役立てていきたいと考えている。また、これらの一連の内容について、平成27年度の卒業生における結果と平成28年度の卒業生における結果を比較して、教育効果に関する省察を行いたい。

2. 方法

2.1 調査内容

本学では、授業や就職指導のより一層の改善を図ることを目的とした現状把握のため、「卒業生の現況に関するアンケート」と題して卒業生の就職先に対してアンケート調査を毎年行っている。おもな内容は「1. 在職状況について」「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の6つの観点による質問項目について4件法で回答を求めた。そして最後に「上記内容も含めて、本学への要望等お書きください」として自由記述を求めた。本稿では、保育者の資質についてみるために、アンケート中、「2. 保育者としての姿勢について」「3. 保育の実践力について」「4. 職場でのコミュニケーションについて」「5. 本学卒業生の勤務状況について」と、特に「6. 本学卒業生の総合的な評価について」の項目を取り上げた。この「6」では、卒業生に対する満足度と将来性について問いかけている。

2.2 調査対象・調査方法

平成29年10～11月の期間に、平成28年度末の卒業生で保育者として就職している66名の就職先57ヶ所(幼稚園・保育所・認定こども園・施設など)の園長ならびに施設長宛てに卒業生66名分の「卒業生の現況に関するアンケート」を郵送し、記入後に返送していただくことで、卒業生56名分(幼稚園5名分・保育所35名分・認定こども園10名分・施設5名分・学童保育1名分)についての回答を得た(回答率84.8%)。

2.3 GPAの算出方法

平成29年3月に卒業した時点までの全成績から算出した全教科累積GPAの値を使用した。(GPAとは「Grade Point Average」の略であり、各履修科目のグレード・ポイント(秀4、優3、良2、可1、不可・失格0)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で割ったものである。)

3. 結果

3.1 総合的評価

まず職場での評価による総得点112点満点中の平均総得点では、前回(平成28年度卒業生)は74.2で、今回(平成29年度卒業生)は77.7であり、少し上がっているようであるが、t検定したところ有意差はみられなかった($p=0.19>.10$)。平成28年度卒業生の職場での評価平均は2.84で、前回の平成27年度卒業生の職場での評価平均2.80とは差がなかった。

総合的な評価としては、現況の満足度と将来性があると感じるかどうかに関する評価を得た。満足度については「6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。」という質問で、「十分満足できる」4点、「まあ満足できる」3点、「あまり満足できない」2点、「ほとんど満足できない」1点として、結果は平均3.09点で、前回における平均2.77点と比べて上昇している傾向がみられた($p=0.07<.10$)。また将来性については「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられていますか。」という質問で、将来性が「十分ある」4点、「まあある」3点、「あまりない」2点、「ほとんどない」1点として、結果は平均3.30で、前回の将来性3.13点に比べてこちらも若干上がっているように見えたが、t検定したところ有意差はみられなかった($p=0.19>.10$)。

3.2 各項目における評価

図1は、平成28年度の本学卒業生に対する保育者としての勤務に関わる各項目(アンケートの内、28項目)の園側からの評価について、その平均値の高い項目から順番に示した図である。図1に示すように、今回評価が最も高かった項目は、前回3番目であった「6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。」であり平均3.30であった。2番目に評価が高かった項目は、前回と同じく「2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。」であり、平均3.27(前回3.15)であった。前回において最も評価の高かった「3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。」は、平成28年度においては3番目で平均3.21(前回3.23)であった。これらに対して最も評価の低かった項目は、前回2番目に評価の低かった「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」であり、平均1.79(前回1.70)であった。その次に低かった項目は、前回1番目に評価の低かった「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」であり、平均1.82(前回1.66)であった。

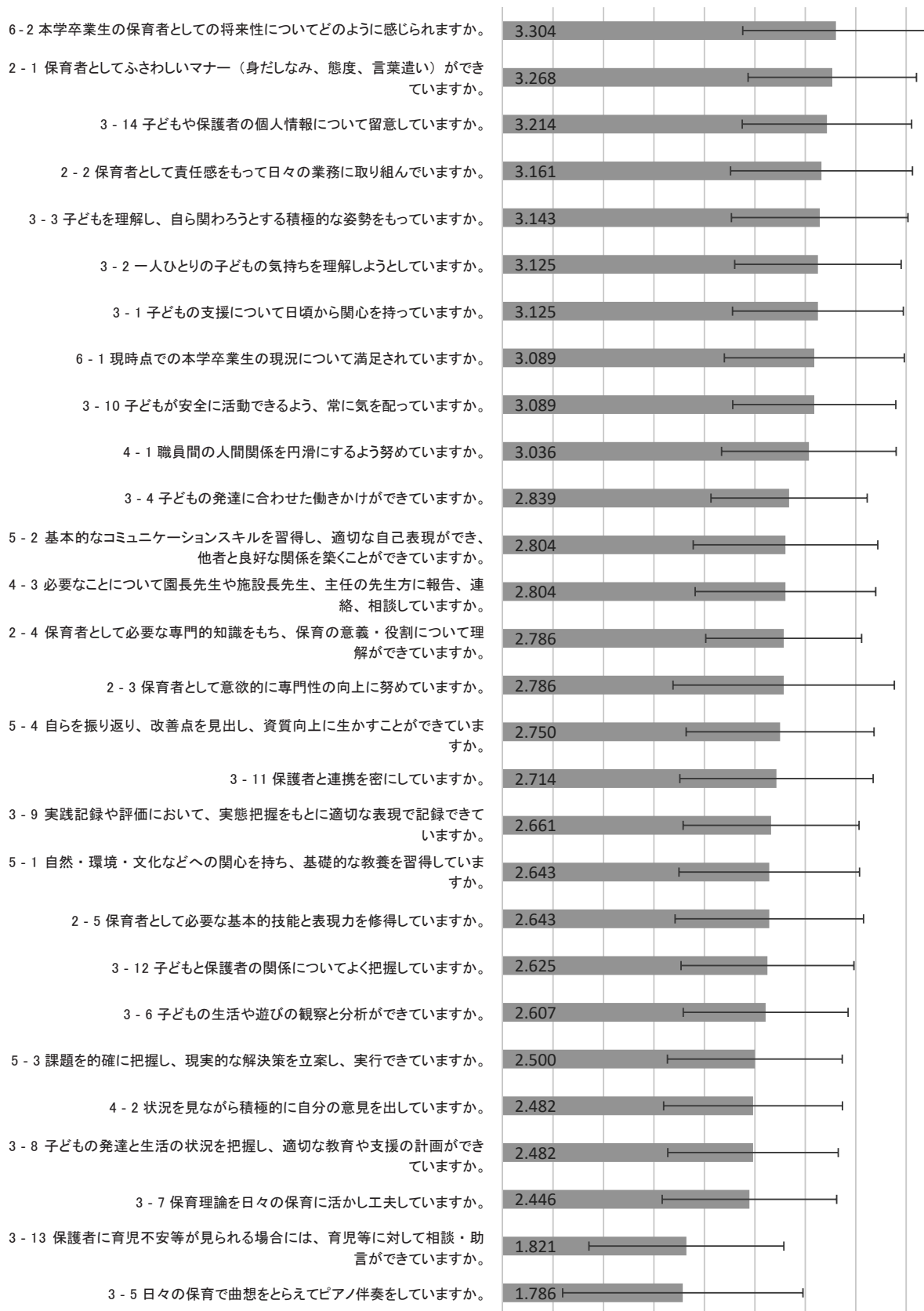


図1 平成28年度本学卒業生の保育者としての各評価（平均と標準偏差）(n=56)

3.3 各項目における評価と現況における総合的な評価との関係

前節で取り上げた満足度と将来性という総合的な評価につながる力との関係について知るために、詳細に分けた個別の評価との相関を算出した（表1）。

表1 平成28年度本学卒業生の保育者としての各評価と総合的な評価との相関

	6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。			6-2 本学卒業生の保育者としての将来性について どのよう感じられますか。			満足度+将来性		
	相関係数 r	t値	p値	相関係数 r	t値	p値	相関係数 r	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。	0.784	9.272	0.0000	0.751	8.367	0.0000	0.806	10.009	0.0000
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	0.803	9.917	0.0000	0.734	7.943	0.0000	0.807	10.043	0.0000
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	0.658	6.423	0.0000	0.645	6.205	0.0000	0.685	6.900	0.0000
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	0.805	9.975	0.0000	0.766	8.764	0.0000	0.825	10.731	0.0000
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	0.660	6.453	0.0000	0.622	5.838	0.0000	0.673	6.687	0.0000
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	0.789	9.448	0.0000	0.705	7.299	0.0000	0.784	9.282	0.0000
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	0.786	9.328	0.0000	0.770	8.862	0.0000	0.817	10.407	0.0000
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもっていますか。	0.785	9.300	0.0000	0.675	6.726	0.0000	0.766	8.751	0.0000
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	0.823	10.629	0.0000	0.717	7.562	0.0000	0.808	10.072	0.0000
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	0.539	4.704	0.0000	0.416	3.362	0.0014	0.501	4.249	0.0001
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	0.710	7.408	0.0000	0.702	7.244	0.0000	0.742	8.125	0.0000
3-7 保育理論を日々の保育に活かして工夫していますか。	0.689	6.995	0.0000	0.635	6.041	0.0000	0.695	7.108	0.0000
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	0.606	5.603	0.0000	0.773	8.952	0.0000	0.726	7.759	0.0000
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録ができていますか。	0.590	5.372	0.0000	0.571	5.113	0.0000	0.610	5.655	0.0000
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	0.807	10.030	0.0000	0.753	8.405	0.0000	0.819	10.478	0.0000
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	0.636	6.051	0.0000	0.723	7.688	0.0000	0.714	7.504	0.0000
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	0.628	5.928	0.0000	0.730	7.847	0.0000	0.714	7.498	0.0000
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	0.495	4.191	0.0001	0.501	4.253	0.0001	0.523	4.514	0.0000
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	0.690	7.009	0.0000	0.676	6.740	0.0000	0.718	7.570	0.0000
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	0.736	7.995	0.0000	0.723	7.697	0.0000	0.767	8.772	0.0000
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	0.646	6.216	0.0000	0.606	5.600	0.0000	0.657	6.409	0.0000
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	0.760	8.601	0.0000	0.806	10.013	0.0000	0.823	10.660	0.0000
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	0.756	8.481	0.0000	0.800	9.807	0.0000	0.818	10.442	0.0000
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができているか。	0.722	7.668	0.0000	0.662	6.491	0.0000	0.726	7.769	0.0000
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行ができていますか。	0.659	6.436	0.0000	0.770	8.859	0.0000	0.751	8.369	0.0000
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができているか。	0.737	8.008	0.0000	0.773	8.963	0.0000	0.794	9.585	0.0000

3.3.1 各項目における評価と現況における満足度との関係

満足度と関係の深い項目は、「3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。」(相関係数0.82(前回0.44))であった。2番目に満足度と関係の深い項目は、「3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。」(相関係数0.81(前回0.56))と「2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。」(相関係数0.81(前回0.56))であった。3番目に満足度と関係の深い項目は、「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」(相関係数0.80(前回0.66))で、これは前回と同じ3番目であった。前回、満足度と関係の特に深かった「3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。」(前回0.71)や「3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。」(前回0.67)は、今回は相関係数0.79で、4番目であった。

これらに対して、総合的な現況での満足度と最も相関係数の低かった項目は、「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」(相関係数0.50(前回0.44))であった。これは、前回の調査では2番目に満足度との相関係数が低く、今回の調査ではさらに相関係数が低かったことから、やはり保育者になったばかりの経験不足で余裕のない初心者の保育者にとって、もともと容易な内容とは言えないので、不十分だからといって、現況について不満足であるという評価にすぐにつながることはなりにくいのであろう。2番目に相関係数の低かった項目は「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」(相関係数0.54(前回0.45))であった。前回、満足度と最も相関の低かった項目である「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」は相関係数0.59(前回0.42)であった。前回3番目に満足度と相関の低かった「3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。」(前回0.44)は、今回は満足度と関係が1番深い項目(相関係数0.82)となっており、発達理解の必要性について重要視されてきていることがうかがえた。また前回「4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。」(前回0.44)であったものが、今回は相関係数0.65となっていたことから、従順さや謙虚さだけでなく、新人であっても積極的に自分の意見を出すことが必要になってきていることがうかがえた。

3.3.2 各項目における評価と将来性があると感じることとの関係

今回の調査で、将来性があると感じることに最も関係の深い項目は、前回の調査では相関がなかった「4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。」(前回0.49)であり、今回は相関係数0.81もあった。この結果から「報告・連絡・相談」の重要性がさらに高まっていることがうかがえた。今回2番目に将来性と関係の深い項目は、これも前回には相関がなかった「5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。」(前回0.42)で、今回は相関係数0.80もあった。この結果から、保育者も基本的な教養を習得して、自然や環境、文化に広く関心をもっていくことが、将来的に保育に活かされていくと捉えられる方向であることがうかがえた。3番目には「2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。」(前回0.64)、「3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。」(前回0.63)、「3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。」(前回0.41)、「5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。」(前回0.48)、「5-4 自らを振り返

り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができますか。」(前回 0.47) がいずれも相関係数0.77で今回は3番目に相関係数が高かった。

前回、将来性と最も関係の深かった「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」(相関係数0.74)は、今回も相関係数0.73で相関があった。前回2番目であった「2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。」(相関係数0.706)も、今回相関係数0.75で相関があった。前回3番目に将来性と関係の深かった「2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。」(相関係数0.67)は、今回は相関係数0.62で、相関はあるものの、若干低い相関になっていた。

これらに対して、今回の調査で、将来性との相関係数が最も低かった項目は「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」(相関係数0.42(前回 0.38))で、前回の調査と同様に相関はなかった。ピアノが弾けるかどうかと、保育者として将来性があると感じるということとは必ずしもつながらないということであった。2番目に将来性との相関係数の低かった項目は、「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」(相関係数0.50(前回 0.37))で、これも前回と同様に相関はなかった。これらは新任の保育者ができていなくても、将来性がないということにはならない項目であることがわかった。前回の調査で将来性との相関係数が最も高かった「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」は、前回には相関係数0.35であったが、今回は0.64で相関があったことから、やはり保育理論に関する教育も軽んじてはならないことがわかった。

3.3.3 満足度と将来性の合計得点から算出した平均得点と自由記述内容との関係より

現況での満足度や将来性があると感じることに関係の最も深い項目は、「2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。」であり、2番目には「3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。」「3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。」「4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。」「5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。」であった。前回最も関係の深かった「2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。」は今回は3番目であり、2番目であった「2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。」も3番目で前回と同様に重要なポイントであった。

これらに対して、現況での満足度や将来性があると感じることに関係が深くはない項目は「3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。」であり、これは前回の調査結果と同様の結果であった。しかし、自由記述欄には、「学生時代に関して、もう少しピアノに力を入れていれればと思います。保育施設においてピアノは必要な所も多いと思いますので、少しでも学生の頃に苦手意識をへらせるように指導していただければと思います。」というご指摘も頂いている。

本学の入学者は入試で実技を課していないため、ピアノ初心者が多い。そのため、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部教学報告(2018印刷中⁸⁾)で詳しく述べているように、様々な工夫を行ってきている。一つ目には、初心者でも音楽の基礎的知識や技術についてわかりやすい教材を独自に作成して用いている。二つ目には、充実した設備と教員の活用であり、ML教室のシステムを使いながら個別指導も

十分に行うことで、いつでも質問ができ、授業の終わりには明らかな進歩が見られるように工夫している。三つ目には、入学から卒業までの期間に学ぶ内容を全て一覧にした「ピアノ練習曲グレード表」を活用している。本学では約30年前から毎年改訂をして、童謡、バイエル、ソナチネ、さらには応用曲、初見練習用の曲なども入っている。学生は卒業までの期間、授業毎にこのグレード表を持参し、身につけた曲には合格印や合格シールをもらい、次の課題に取り組んでいく。このグレード表によって、各学生が各自で目標を決めたりすることが可能となり、自主的な練習を促すことのできる仕組みとなっている。以上の三つの工夫により、全員が必修のグレードまで達することができたが、やはり頑張っ練習しても上達の遅い初心者学生もあり、このような学生には無理に追い詰めたりはせず、各自のペースで進むようにとのアドバイスでやる気を持続させ、必要であれば補習も十分に行っている。しかし、ご指摘通り苦手意識を拭いきれなかった学生がいるのも事実であり、このことは今後の課題である。

現況での満足度や将来性があると感じることに2番目に関係の深くない項目は「3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。」であり、これも前回同様で、そもそも新任保育者には難しい内容であり、むしろ経験により培っていく力としてみてくださっているようであった。この設問に関して自由記述欄に、「特に“3-13”は、3年以上の経験を積んだ保育士に対しての設問と思われました。現在、先生のような新採用者は職場に慣れよう、なじもう、保育者として、皆と良い関係を築こうと日々奮闘しておられます。保護者対応も“1人で解決せず、先輩保育士や主任、園長に相談をもちかけることができているか？”というような内容の方が回答しやすく思いました。」というご指摘もいただいている。今後の設問の在り方も検討していきたい。

「3-7 保育理論を日々の保育に生かし工夫していますか。」は、前回には現況での満足度や将来性があると感じることとの相関がなかったが、今回では相関があった。このことから、一旦軽視しそうなになった保育理論に関する教育であるが、けっして軽視してはいけないことがわかった。そして、全てが毎年同様に当てはまるわけでないことがわかった。ある1回の調査からわかることも多いが、今後も慎重に毎年このような調査を行い、データの変遷をチェックしていくことで、より信憑性の高い内容を把握した上で、本学園での保育者養成課程における教育が現場に一層還元できるような有益な教育となるように努力していきたい。

園側からの全体的に特に高く評価されていた者（本稿で取り上げた保育者としての勤務に関わる28項目の平均が3.0以上の者）についての自由記述欄には、「前向きで一生懸命さが伺えます。」「頑張っている。」「今後もこのような素直な、やる気のある学生を待っています。」「常に周りを意識し誠実に日々の保育に取り組んでおられます。」「本当に気づかい心づかいができて感謝しております。」などと書かれていた。

これらに対して、園側からの全体的に低く評価されていた者（本稿で取り上げた保育者としての勤務に関わる28項目の平均が2.5未満の者）についての自由記述欄には、積極性がみられないことや自信がもてないようであることが指摘されていることがあった。

3.3.4 総合的な評価・各項目における評価得点と累積GPAとの関係より

卒業後における新人保育者としての各項目における評価得点と在学中のGPAの値との相関もみたが、すべての項目において相関はなかった(表2)。これは、高岡他(2017)でも述べた前回の結果と同様の結果であり、在学中のGPAによって就職後の活躍を予測することはできないということを示しているといえよう。平成28年度卒業生の在学中の全教科最終累積GPAの平均は2.70で、前回の平成27年度卒業生の平均2.49と比べると高くなっていた(t検定 $p=0.009 < .05$)。しかし平成28年度卒業生の職場での評価平均はあまり変わらなかった。つまり、大学の教員からみると成績は上がってきたように思えるが、職場での評価も上がるというところまでは至らなかったのである。

表2 平成28年度本学卒業生の保育者としての各評価と総合的な評価と在学中GPAの相関r

	GPAとの 相関係数 r	t値	p値
2-1 保育者としてふさわしいマナー(身だしなみ、態度、言葉遣い)ができていますか。	0.017	0.123	0.903
2-2 保育者として責任感をもって日々の業務に取り組んでいますか。	-0.018	-0.131	0.896
2-3 保育者として意欲的に専門性の向上に努めていますか。	-0.037	-0.269	0.789
2-4 保育者として必要な専門的知識をもち、保育の意義・役割について理解ができていますか。	-0.161	-1.202	0.235
2-5 保育者として必要な基本的技能と表現力を修得していますか。	-0.160	-1.188	0.240
3-1 子どもの支援について日頃から関心を持っていますか。	-0.087	-0.639	0.525
3-2 一人ひとりの子どもの気持ちを理解しようとしていますか。	-0.083	-0.610	0.544
3-3 子どもを理解し、自ら関わろうとする積極的な姿勢をもっていますか。	-0.142	-1.053	0.297
3-4 子どもの発達に合わせた働きかけができていますか。	-0.232	-1.756	0.085
3-5 日々の保育で曲想をとらえてピアノ伴奏をしていますか。	-0.132	-0.977	0.333
3-6 子どもの生活や遊びの観察と分析ができていますか。	-0.170	-1.268	0.210
3-7 保育理論を日々の保育に活かし工夫していますか。	0.015	0.113	0.911
3-8 子どもの発達と生活の状況を把握し、適切な教育や支援の計画ができていますか。	-0.179	-1.334	0.188
3-9 実践記録や評価において、実態把握をもとに適切な表現で記録できていますか。	-0.055	-0.407	0.686
3-10 子どもが安全に活動できるよう、常に気を配っていますか。	-0.083	-0.612	0.543
3-11 保護者と連携を密にしていますか。	-0.117	-0.863	0.392
3-12 子どもと保護者の関係についてよく把握していますか。	-0.282	-2.158	0.035
3-13 保護者に育児不安等が見られる場合には、育児等に対して相談・助言ができていますか。	-0.300	-2.307	0.025
3-14 子どもや保護者の個人情報について留意していますか。	-0.131	-0.972	0.335
4-1 職員間の人間関係を円滑にするよう努めていますか。	-0.113	-0.834	0.408
4-2 状況を見ながら積極的に自分の意見を出していますか。	-0.064	-0.471	0.639
4-3 必要なことについて園長先生や施設長先生、主任の先生方に報告、連絡、相談していますか。	-0.105	-0.778	0.440
5-1 自然・環境・文化などへの関心を持ち、基礎的な教養を習得していますか。	-0.098	-0.723	0.473
5-2 基本的なコミュニケーションスキルを習得し、適切な自己表現ができ、他者と良好な関係を築くことができていますか。	-0.136	-1.006	0.319
5-3 課題を的確に把握し、現実的な解決策を立案し、実行できていますか。	-0.209	-1.573	0.121
5-4 自らを振り返り、改善点を見出し、資質向上に生かすことができていますか。	-0.111	-0.818	0.417
6-1 現時点での本学卒業生の現況について満足されていますか。	-0.069	-0.511	0.611
6-2 本学卒業生の保育者としての将来性についてどのように感じられますか。	-0.162	-1.206	0.233
6-1 満足 + 6-2 将来性	-0.122	-0.906	0.369
2-1 から6-2までの総得点	-0.150	-1.112	0.271

4. まとめと今後の課題

総合的な評価・各項目における評価得点も一見して全体的に上昇したように見えるが、総合的な評価・各項目における評価得点と累積GPAとの関係をみた結果より、学生の累積GPAが全体的に上がったほど明確には職場での評価は上がらなかった。田中（2014）によって、GPAと幼稚園での教育実習の成績との間に相関関係がないことも示されている⁶⁾。しかし、理想的なことを言えば、保育者養成校における成績のよい学生が、現場でも評価の高い保育者となることである。そのため卒業後に保育者として保育の現場で貢献できる人材育成のために効果的に機能するような在学中の評価の在り方を一層検討していく必要があると強く感じる事となった。また今後、在学中のGPAと実習成績との関係や、次年度生から実施しているPROGテストとの関係なども調べていきたい。

前回の調査では平均得点が2.0未満であった者は4名いたが、今回は2名分の無評価以外には全くいなかった。平均得点が2.2未満であった者は、無評価の2名分を合わせると6名いたが、この6名のうち4名は就職後一年以内の早期退職をしていた。前回の調査を受けて、社会人基礎力向上につながる指導を徹底してきたにもかかわらず、今回も同様に早期退職者が出てしまった。これは保育者養成校として深く反省している。早期退職は多大な迷惑をかけることになるため、低い得点につながることはない。早期退職理由をみると、それぞれ異なる内容であるが、今年度の場合、一貫していえることは、本人の適性と就職先とのミスマッチが原因であるというケースが多いようであった。早期退職事例を一つひとつ真摯に受け止め、決してミスマッチの起きないように就職支援していくことができるように努力していきたい。

また、今回は保育者として就職した先の種類別には検討できなかったが、幼稚園実習担当者と保育所実習担当者そして施設実習担当者の中で、実習指導において特に重要な項目としている項目の内容や順序が少し異なっているようであったので、保育者として就職した先の種類別の検討も今後の課題として研究していきたい。そして一層ミスマッチの起きない就職支援につなげていきたいと考えている。

職場での評価の中で、満足度や将来性と関わる項目に変化もみられた。そのような変化がみられたような項目を把握した上で、重点をおいて教育すべき内容を確認しながら、就職先で役立つ人材育成をめざして、今後も教育的働きかけを充実させていきたい。そのためにも、就職先の先生方からご意見を頂戴したり、問題を指摘していただけることは、保育者養成校にとって大変助かることである。今後も連携して、より充実した保育者養成を行っていきけるようにしたい。

謝辞

調査にご協力頂きました幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設などの先生方に心より感謝申し上げます。また調査にご尽力くださいました本学学生課の方々に心より感謝申し上げます。卒業生の皆様にも感謝申し上げますとともに、皆様のご多幸を心から願っております。

引用・参考文献

- 1) 高岡昌子、林悠子、高橋千香子、岩本健一（2017）新人保育者に必要な資質について—新人保育者に対する総合的な評価につながる具体的な資質—。奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第48号：41-49.
- 2) 前迫ゆり、中田奈月、智原江美、高岡昌子、石田慎二、福田公教（2004）地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座—奈良県内保育所の実態調査を通して—。奈良佐保短期大学研究紀要12号：27-44.
- 3) 江田美代子（2007）保育士に求められる資質能力に関する調査研究。宮崎女子短期大学紀要34号：31-46.
- 4) 林悠子、森本美佐、東村知子（2012）保育者養成校に求められる学生の資質について—保育現場へのアンケート調査より—。奈良文化女子短期大学紀要第43号：127-134.
- 5) 林悠子、森本美佐（2014）保育者に求められる学生の保育実践能力と資質について。奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第45号：123-130.
- 6) 林悠子、高橋千香子、高岡昌子、岩本健一（2016）保育者養成に求められる保育者の資質について(2)—就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から—。奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要第47号：71-80.
- 7) 田中敬一（2014）教育実習学内指導に関する一考察。八戸学院短期大学研究紀要第38巻：1-10.
- 8) 吉田明史、磯辺ゆう、恒岡宗司、青山雅哉、飯田恵美子、岩本健一、小川純子、高岡昌子、高橋千香子、筒井道子、中田章子、林悠子、森本美佐（2018印刷中）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部教学報告。奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科

